

## マーケット概況（2022年5月）

5月の債券相場は、FRBの金融引き締め姿勢を背景に米債安となった流れから売り先行で始まった。3～4日のFOMCでは市場予想の通り50bpの利上げとバランスシート縮小を6月から開始することが決定されたが、6日の4月米国雇用統計が強い結果となると米国の利上げペース加速懸念が強まり、米国長期金利は約3年6カ月ぶりの3.2%台まで上昇し、9日に10年366回債は0.245%まで上昇した。10日に行われた10年債入札は低調な結果となったが、指値オペの水準である0.250%が意識され下値は限られた。米国長期金利の上昇が一服するなか債券先物は前月末比プラス圏を回復したが、超長期ゾーンは12日の30年入札が低調な結果となったことなどから上値が重く、イールドカーブのスティープ化が進んだ。20日に行われた20年債の入札が順調な結果となると、これまでの反動から超長期債を中心に買いが優勢となり、25日には10年366回債が0.205%、20年180回債は0.695%まで金利低下した。26日に行われた40年債入札は、今年度から1回あたり1,000億円の増発となったため警戒する向きもあったが、入札前の調整が進んだことで順調な結果となった。しかし、結果発表後には高値警戒感から超長期債は戻り売りに押される展開となった。月末にかけて日経平均株価が堅調に推移したため10年366回債は上げ幅を縮小し、0.235%で今月の取引を終えた。

### <短国市場>

3M金利は-0.13%台でスタートしたが、第4週目では投資家需要が一巡したことで-0.09%台に上昇した。海外投資家需要を背景に、6日・13日・20日の3M入札は最高落札利回りが-0.11%台となり、セカンダリー市場では一時-0.155%まで低下したが、概ね-0.12%台～-0.13%台で堅調に推移した。27日の3M1083回債入札では、償還日が海外休場日となることから海外投資家需要が剥落し、最高落札利回りが-0.0982%と低調だった。GC金利も-0.09%台へ上昇し、最終的に3Mは-0.099%で取引を終えた。3Mの好需給を背景に、月後半の1Y・6M入札では投資家の買いが向かい、1Y1080回債は最高落札利回りが-0.0804%、6M1082回債は-0.1070%といずれも前回債比で低下した。セカンダリー市場では-0.10%台～-0.11%台で推移したが投資家需要は限定的で、月末は国庫短期証券買入オペを背景に1Y1080回債は-0.118%、6M1082回債は-0.112%で取引を終えた。

### <一般債市場>

10年地方債は国債カーブ+6.0bp、5年地方債は同+5.0bpとスプレッドが維持され、利率も国債金利の上昇により10年債は0.30%台と高利率となったことから需要は旺盛だった。既発債は、引き続き金利の先行き不透明感は払拭され難しく、長期・超長期ゾーンへの警戒感からスプレッドのワイド化が意識された。社債は電力会社各社の起債が全体の4割を占め、月間発行額は6,085億円と前年同月並みの水準となった。SDGs債関連では、いずれも発行体として初めて、九州電力とJERAがトランジションボンドを、住友商事がグリーンボンドを発行した。

### ◎ 主要債券月間四本値

銘柄	始値	高値	安値	最終出来値
#366	0.220(2日)	0.205(25日)	0.245(9日)	0.235(31日)
#365	0.230(2日)	0.200(25日)	0.250(10日)	0.225(31日)
#355	0.140(2日)	0.080(25日)	0.175(9日)	0.125(31日)
#151(5Y)	0.015(2日)	-0.015(25日)	0.025(6日)	0.000(31日)
#180(20Y)	0.755(2日)	0.695(25日)	0.780(9日)	0.755(31日)
#1075-#1082 TDB(6M)	-0.100(9日)	-0.120(24日)	-0.100(9日)	-0.112(30日)
#1076-#1083 TDB(3M)	-0.130(6日)	-0.155(6日)	-0.095(27日)	-0.099(30日)